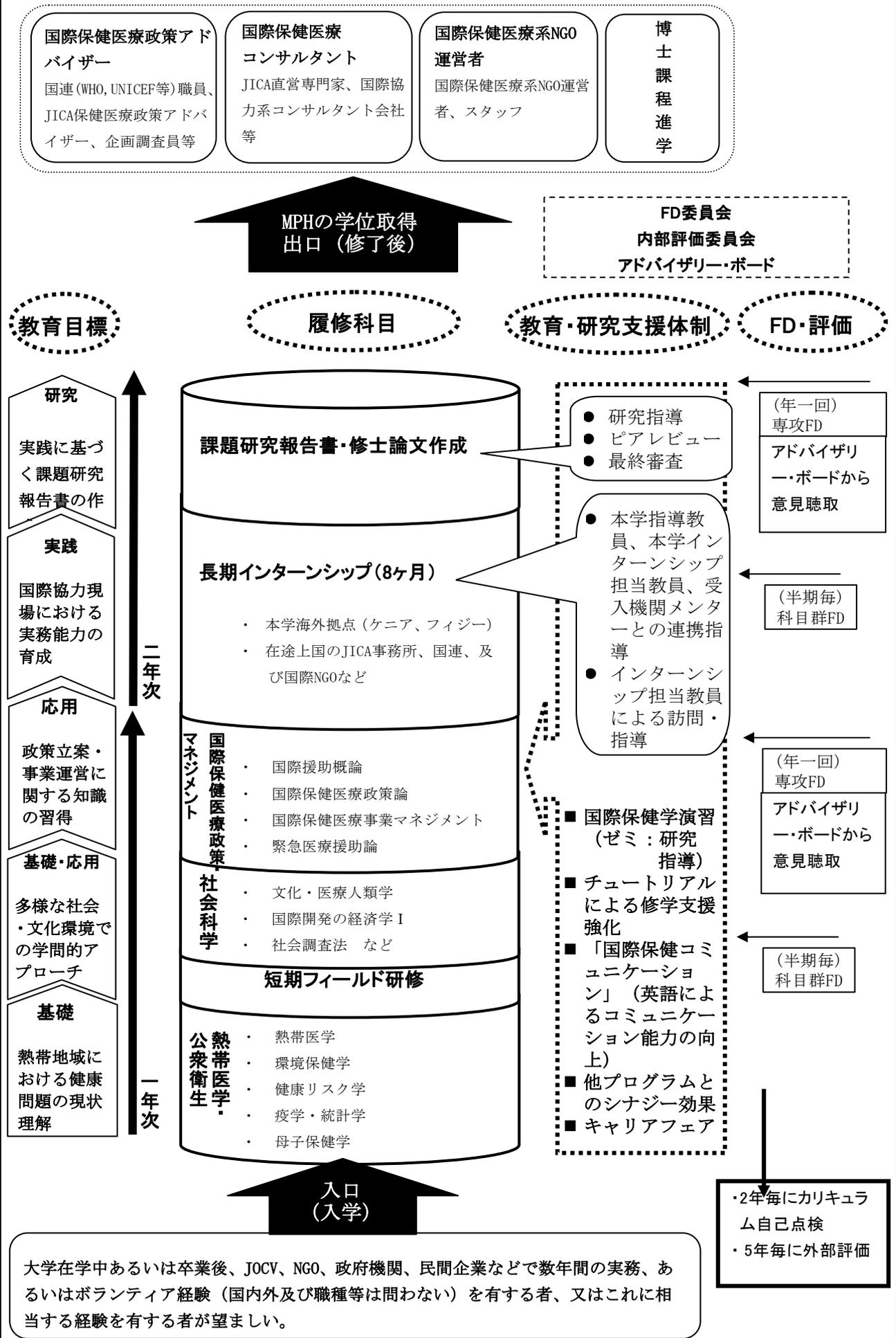


教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	長崎大学	申請分野(系)	医療系
教育プログラムの名称	国際保健分野特化型の公衆衛生学修士コース		
主たる研究科・専攻名	国際健康開発研究科国際健康開発専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 青木 克己		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>貧困削減と持続可能な開発を目指す国際社会において、マラリア、結核、エイズなどの感染症、子供や女性の健康問題は大きな問題となっている。また、SARSや高病原性鳥インフルエンザなどの感染症は国境を越えた地球規模での脅威である。このような健康課題に取り組むために、公衆衛生学修士号(Master of Public Health: MPH)を取得した人材が国際保健の現場で活躍している。日本はこれまでに感染症対策や母子保健などの公衆衛生分野で目覚ましい成果を挙げており、その経験は途上国に対して様々な教訓を与えるとともに強い説得力を持つため、国際貢献の舞台でそれらを生かして欲しいとの日本への期待は大きい。しかし、その期待に反して国際保健の現場で活躍する日本人は少ない。それは、日本に国際保健に特化した公衆衛生学修士課程が設置されていないことに起因する。この期待に応えるべく、本学は平成20年4月に国際保健に特化した国際健康開発研究科修士課程を設置し、課程修了者にはMPHを授与する。本プログラムは、本研究科において開発途上国の現場で活躍できる実践的な問題解決能力を有する人材の育成を目的とする。その特徴は国際基準を満たす学際的カリキュラムと2回の海外研修(短期フィールド研修と長期インターンシップ)、そしてこれらを可能にするプログラム実施体制である。本課程を修了しMPHを授与された人材が、国際機関、NGOあるいはODA実施機関などの国際保健の現場でプロジェクトリーダーとして活躍することが、本プログラムの目標である。</p> <p>1. 学際的教育の重視:国際基準を満たす国際保健学のカリキュラム構築</p> <p>開発途上国における健康課題は、保健医療的要因に加え、社会的、経済的、文化的要因が錯綜し複雑化している。開発途上国の健康課題を改善するためには、公衆衛生学、熱帯医学を核として、社会学、経済学、文化人類学など分野横断的、すなわち学際的知識と技能を身につけることが必要不可欠である。本研究科はそれを受け「独立研究科」として設置され、医学部、熱帯医学研究所、経済学部、環境科学部など複数学部から専任教員が参加する体制とし、学際的なカリキュラムを構築した。1年次前期に「基礎科目」(熱帯医学、環境保健学、疫学・統計学、母子保健学、保健医療倫理学等)、後期に「応用科目」(国際援助概論、国際保健医療政策論、国際保健医療事業マネジメント、文化・医療人類学、国際開発の経済学、社会調査法等)を配置したカリキュラム構成となっている。本プログラムではこのような学際的教育という理念の基に体系化されたカリキュラムの編成とプロセス管理がなされている。さらに高度な世界的知見を教授するために、世界的に活躍する国内外の専門家から構成されるアドバイザー・ボード会議を実施し、カリキュラム改善に関して助言を受ける他、会議の機会を利用してこれら第一線の専門家が学生に対し講義を行う。</p> <p>2. 国際協力の現場における実践的能力の涵養: 途上国での短期フィールド研修と長期インターンシップ</p> <p>1年次前期の「基礎科目」による基礎知識の習得後、夏期に短期フィールド研修を実施する。後期の「応用科目」は短期フィールド研修で得た現場での経験と理論を橋渡しする。このように学問的基礎とその応用力の重要性を体験から学ばせることで、自ら学ぶ意欲を喚起するよう配慮している。2年次の長期インターンシップでは、前半6ヶ月は途上国の国際開発援助機関のメンター(学生担当者)、研究科指導教員及びインターンシップ担当教員が連携した支援体制のもと、現地で実際に進行中のプロジェクト運営に参加し、現地政府との協議や地域住民への教育活動などを担当する。後半2ヶ月は課題研究報告書作成のため現地でデータ・情報を収集し分析を行う。この経験を通じてプロジェクト運営の実践的能力、研究能力を向上させ、学問的基礎の重要性を再確認させる。コース全体を通じて涵養される学生の理論的、実践的能力は、インターン修了後のメンターの評価、課題研究報告書審査会の審査を通じて評価され、教育成果の質を保証する。</p> <p>3. 学長直轄組織としての管理運営の効率化</p> <p>本プログラムは、大学院国際健康開発研究科が実施主体となる。本研究科では管理運営の効率化と迅速化を促すため、予算、組織等の運営事項は学長を議長とする国際健康開発研究科運営評議会において審議し、教授会の審議は教学関連事項に限定するとともに、研究科長は学長が選任する。</p>			

長崎大学：国際保健分野特化型の公衆衛生学修士コース

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「地球規模の健康に対処する分野で活躍できる高度な知識及び技能を有する実践的な人材を養成」することを目的に掲げ、その目的に沿った優れた教員組織、ファカルティ・ディベロップメントの実施体制が整備され、また全入学者が他大学出身者であることを踏まえた基礎知識涵養のための学習機会の提供が行われている点は評価できる。

教育プログラムについては、21世紀COEプログラム「熱帯病新興感染症の地球規模制御戦略拠点」の実績を核とし、修士課程入学者にJICA等海外協力活動に参加した経験を持つ学生が多いこと等を生かし、国際保健に特化した学際的な国際健康開発研究科としてmaster of public health(MPH)授与を可能とする実質的な人材育成を図る優れた取組である。本取組は、我が国の発展途上国への国際貢献に必要な人材育成に貢献するものとして重要であり、また我が国において今後発展させるべき重点領域である公衆衛生大学院の在り方としてもユニークである。また、MPHに必要な資質と能力を育成するための、途上国における保健医療（母子保健・熱帯病・感染症等）の知識、途上国の多様な社会・文化環境への理解、学際的アプローチによる政策立案・事業運営能力、コミュニケーション能力の育成の方策が練られており、フィールド研修や長期インターンシップも取り入れた実効性の高いプログラムとなっている。教育プログラム自体の自己点検・改善体制も整備されており、具体的な国際貢献を可能としつつ大学院教育の実質化に資する優れた取組である。